

新習志野に運動場完成

野球場

フットサルコート

テニスコート



ソフトボールの始球式



学生寮と緑のコート



寮をバックに記念撮影



こけら落としにソフトボール戦

新習志野キャンパスの学生寮わきに野球場、テニスコート4面、フットサルコート2面の運動施設が完成。東京湾に近く、青空が広がる野球場で2月10日、こけら落とし戦として4会学生・寮生チーム対職員野球部のソフトボール試合が行われた。

同日正午、瀬戸熊修理長が始球式のボールを投げ、学生チーム先攻で試合開始。わずか3回戦だったが、職員野球部が9点を決めて圧勝。苦戦する学生チームから「ドンマイ」と大きな声が上がリ、新球場に終始、歓声が響いた。

年間を通し、快適に体を動かせる場が広がったことで、大学生生活の充実が期待される。これらの運動施設は、4月から一般学生に供用を開始。用具も貸し出す。利用申し込み、詳細は新習志野学生課まで。

こけら落としにソフトボール戦

新習志野キャンパスの学生寮わきに野球場、テニスコート4面、フットサルコート2面の運動施設が完成。東京湾に近く、青空が広がる野球場で2月10日、こけら落とし戦として4会学生・寮生チーム対職員野球部のソフトボール試合が行われた。

同日正午、瀬戸熊修理長が始球式のボールを投げ、学生チーム先攻で試合開始。わずか3回戦だったが、職員野球部が9点を決めて圧勝。苦戦する学生チームから「ドンマイ」と大きな声が上がリ、新球場に終始、歓声が響いた。

年間を通し、快適に体を動かせる場が広がったことで、大学生生活の充実が期待される。これらの運動施設は、4月から一般学生に供用を開始。用具も貸し出す。利用申し込み、詳細は新習志野学生課まで。

こけら落としにソフトボール戦

新習志野キャンパスの学生寮わきに野球場、テニスコート4面、フットサルコート2面の運動施設が完成。東京湾に近く、青空が広がる野球場で2月10日、こけら落とし戦として4会学生・寮生チーム対職員野球部のソフトボール試合が行われた。

同日正午、瀬戸熊修理長が始球式のボールを投げ、学生チーム先攻で試合開始。わずか3回戦だったが、職員野球部が9点を決めて圧勝。苦戦する学生チームから「ドンマイ」と大きな声が上がリ、新球場に終始、歓声が響いた。

年間を通し、快適に体を動かせる場が広がったことで、大学生生活の充実が期待される。これらの運動施設は、4月から一般学生に供用を開始。用具も貸し出す。利用申し込み、詳細は新習志野学生課まで。

こけら落としにソフトボール戦

新習志野キャンパスの学生寮わきに野球場、テニスコート4面、フットサルコート2面の運動施設が完成。東京湾に近く、青空が広がる野球場で2月10日、こけら落とし戦として4会学生・寮生チーム対職員野球部のソフトボール試合が行われた。

同日正午、瀬戸熊修理長が始球式のボールを投げ、学生チーム先攻で試合開始。わずか3回戦だったが、職員野球部が9点を決めて圧勝。苦戦する学生チームから「ドンマイ」と大きな声が上がリ、新球場に終始、歓声が響いた。

年間を通し、快適に体を動かせる場が広がったことで、大学生生活の充実が期待される。これらの運動施設は、4月から一般学生に供用を開始。用具も貸し出す。利用申し込み、詳細は新習志野学生課まで。

こけら落としにソフトボール戦

新習志野キャンパスの学生寮わきに野球場、テニスコート4面、フットサルコート2面の運動施設が完成。東京湾に近く、青空が広がる野球場で2月10日、こけら落とし戦として4会学生・寮生チーム対職員野球部のソフトボール試合が行われた。

同日正午、瀬戸熊修理長が始球式のボールを投げ、学生チーム先攻で試合開始。わずか3回戦だったが、職員野球部が9点を決めて圧勝。苦戦する学生チームから「ドンマイ」と大きな声が上がリ、新球場に終始、歓声が響いた。

年間を通し、快適に体を動かせる場が広がったことで、大学生生活の充実が期待される。これらの運動施設は、4月から一般学生に供用を開始。用具も貸し出す。利用申し込み、詳細は新習志野学生課まで。

本学、学生受け入れや研究交流

本学は、木更津工業高等専門学校と「包括的な連携に関する協定」を結び、2月24日、小宮一仁学長と写真左と前野一夫校長と写真右が出席して締結式を行った。

木更津高専は昭和42年創立。機械、電気電子、電子制御など5年制の準学士課程5学科と、機械

本学、学生受け入れや研究交流

本学は、木更津工業高等専門学校と「包括的な連携に関する協定」を結び、2月24日、小宮一仁学長と写真左と前野一夫校長と写真右が出席して締結式を行った。

木更津高専は昭和42年創立。機械、電気電子、電子制御など5年制の準学士課程5学科と、機械

本学、学生受け入れや研究交流

本学は、木更津工業高等専門学校と「包括的な連携に関する協定」を結び、2月24日、小宮一仁学長と写真左と前野一夫校長と写真右が出席して締結式を行った。

木更津高専は昭和42年創立。機械、電気電子、電子制御など5年制の準学士課程5学科と、機械

本学、学生受け入れや研究交流

本学は、木更津工業高等専門学校と「包括的な連携に関する協定」を結び、2月24日、小宮一仁学長と写真左と前野一夫校長と写真右が出席して締結式を行った。

木更津高専は昭和42年創立。機械、電気電子、電子制御など5年制の準学士課程5学科と、機械

本学、学生受け入れや研究交流

本学は、木更津工業高等専門学校と「包括的な連携に関する協定」を結び、2月24日、小宮一仁学長と写真左と前野一夫校長と写真右が出席して締結式を行った。

木更津高専は昭和42年創立。機械、電気電子、電子制御など5年制の準学士課程5学科と、機械



ア、ドイツなどと交流を深めている。

ア、ドイツなどと交流を深めている。

今回の連携はこのような木更津高専側の教育理念と、本学が進めている最先端技術開発やグローバル化推進などの理念の方向性が一致していると認識をもち、これからの日本社会の中核を支える工科系人材に求められる共通した資質の向上、国際社会に通用する人材の育成に力を合わせて当たっていくというもの。

提携の主な内容は▽学生の受け入れ▽教職員、研究者および学生の交流▽共同研究▽研究施設、設備の相互利用▽研究資料、刊行物および研究情報の交換▽社会貢献活動など。

木更津高専では卒業生の進学志向も高まっており、準学士課程卒業生の25%が4年制大学に編入学。専攻科卒業生の33%が大学院に進んでいる（いずれも平成25年度）。

小宮学長は「本学には大学院も研究機関もあるので、優秀な高専卒業生の進路にもなると思う」と話している。

ア、ドイツなどと交流を深めている。

今回の連携はこのような木更津高専側の教育理念と、本学が進めている最先端技術開発やグローバル化推進などの理念の方向性が一致していると認識をもち、これからの日本社会の中核を支える工科系人材に求められる共通した資質の向上、国際社会に通用する人材の育成に力を合わせて当たっていくというもの。

提携の主な内容は▽学生の受け入れ▽教職員、研究者および学生の交流▽共同研究▽研究施設、設備の相互利用▽研究資料、刊行物および研究情報の交換▽社会貢献活動など。

木更津高専では卒業生の進学志向も高まっており、準学士課程卒業生の25%が4年制大学に編入学。専攻科卒業生の33%が大学院に進んでいる（いずれも平成25年度）。

小宮学長は「本学には大学院も研究機関もあるので、優秀な高専卒業生の進路にもなると思う」と話している。

ア、ドイツなどと交流を深めている。

今回の連携はこのような木更津高専側の教育理念と、本学が進めている最先端技術開発やグローバル化推進などの理念の方向性が一致していると認識をもち、これからの日本社会の中核を支える工科系人材に求められる共通した資質の向上、国際社会に通用する人材の育成に力を合わせて当たっていくというもの。

提携の主な内容は▽学生の受け入れ▽教職員、研究者および学生の交流▽共同研究▽研究施設、設備の相互利用▽研究資料、刊行物および研究情報の交換▽社会貢献活動など。

木更津高専では卒業生の進学志向も高まっており、準学士課程卒業生の25%が4年制大学に編入学。専攻科卒業生の33%が大学院に進んでいる（いずれも平成25年度）。

小宮学長は「本学には大学院も研究機関もあるので、優秀な高専卒業生の進路にもなると思う」と話している。

ア、ドイツなどと交流を深めている。

今回の連携はこのような木更津高専側の教育理念と、本学が進めている最先端技術開発やグローバル化推進などの理念の方向性が一致していると認識をもち、これからの日本社会の中核を支える工科系人材に求められる共通した資質の向上、国際社会に通用する人材の育成に力を合わせて当たっていくというもの。

提携の主な内容は▽学生の受け入れ▽教職員、研究者および学生の交流▽共同研究▽研究施設、設備の相互利用▽研究資料、刊行物および研究情報の交換▽社会貢献活動など。

木更津高専では卒業生の進学志向も高まっており、準学士課程卒業生の25%が4年制大学に編入学。専攻科卒業生の33%が大学院に進んでいる（いずれも平成25年度）。

小宮学長は「本学には大学院も研究機関もあるので、優秀な高専卒業生の進路にもなると思う」と話している。

ア、ドイツなどと交流を深めている。

今回の連携はこのような木更津高専側の教育理念と、本学が進めている最先端技術開発やグローバル化推進などの理念の方向性が一致していると認識をもち、これからの日本社会の中核を支える工科系人材に求められる共通した資質の向上、国際社会に通用する人材の育成に力を合わせて当たっていくというもの。

提携の主な内容は▽学生の受け入れ▽教職員、研究者および学生の交流▽共同研究▽研究施設、設備の相互利用▽研究資料、刊行物および研究情報の交換▽社会貢献活動など。

木更津高専では卒業生の進学志向も高まっており、準学士課程卒業生の25%が4年制大学に編入学。専攻科卒業生の33%が大学院に進んでいる（いずれも平成25年度）。

小宮学長は「本学には大学院も研究機関もあるので、優秀な高専卒業生の進路にもなると思う」と話している。

ア、ドイツなどと交流を深めている。

今回の連携はこのような木更津高専側の教育理念と、本学が進めている最先端技術開発やグローバル化推進などの理念の方向性が一致していると認識をもち、これからの日本社会の中核を支える工科系人材に求められる共通した資質の向上、国際社会に通用する人材の育成に力を合わせて当たっていくというもの。

提携の主な内容は▽学生の受け入れ▽教職員、研究者および学生の交流▽共同研究▽研究施設、設備の相互利用▽研究資料、刊行物および研究情報の交換▽社会貢献活動など。

木更津高専では卒業生の進学志向も高まっており、準学士課程卒業生の25%が4年制大学に編入学。専攻科卒業生の33%が大学院に進んでいる（いずれも平成25年度）。

小宮学長は「本学には大学院も研究機関もあるので、優秀な高専卒業生の進路にもなると思う」と話している。

ア、ドイツなどと交流を深めている。

今回の連携はこのような木更津高専側の教育理念と、本学が進めている最先端技術開発やグローバル化推進などの理念の方向性が一致していると認識をもち、これからの日本社会の中核を支える工科系人材に求められる共通した資質の向上、国際社会に通用する人材の育成に力を合わせて当たっていくというもの。

提携の主な内容は▽学生の受け入れ▽教職員、研究者および学生の交流▽共同研究▽研究施設、設備の相互利用▽研究資料、刊行物および研究情報の交換▽社会貢献活動など。

木更津高専では卒業生の進学志向も高まっており、準学士課程卒業生の25%が4年制大学に編入学。専攻科卒業生の33%が大学院に進んでいる（いずれも平成25年度）。

小宮学長は「本学には大学院も研究機関もあるので、優秀な高専卒業生の進路にもなると思う」と話している。

ア、ドイツなどと交流を深めている。

今回の連携はこのような木更津高専側の教育理念と、本学が進めている最先端技術開発やグローバル化推進などの理念の方向性が一致していると認識をもち、これからの日本社会の中核を支える工科系人材に求められる共通した資質の向上、国際社会に通用する人材の育成に力を合わせて当たっていくというもの。

提携の主な内容は▽学生の受け入れ▽教職員、研究者および学生の交流▽共同研究▽研究施設、設備の相互利用▽研究資料、刊行物および研究情報の交換▽社会貢献活動など。

木更津高専では卒業生の進学志向も高まっており、準学士課程卒業生の25%が4年制大学に編入学。専攻科卒業生の33%が大学院に進んでいる（いずれも平成25年度）。

小宮学長は「本学には大学院も研究機関もあるので、優秀な高専卒業生の進路にもなると思う」と話している。

ア、ドイツなどと交流を深めている。

今回の連携はこのような木更津高専側の教育理念と、本学が進めている最先端技術開発やグローバル化推進などの理念の方向性が一致していると認識をもち、これからの日本社会の中核を支える工科系人材に求められる共通した資質の向上、国際社会に通用する人材の育成に力を合わせて当たっていくというもの。

提携の主な内容は▽学生の受け入れ▽教職員、研究者および学生の交流▽共同研究▽研究施設、設備の相互利用▽研究資料、刊行物および研究情報の交換▽社会貢献活動など。

木更津高専では卒業生の進学志向も高まっており、準学士課程卒業生の25%が4年制大学に編入学。専攻科卒業生の33%が大学院に進んでいる（いずれも平成25年度）。

小宮学長は「本学には大学院も研究機関もあるので、優秀な高専卒業生の進路にもなると思う」と話している。

NEWS CIT

2015 3.15

ニュースシーアイティ

千葉工業大学・入試広報部
〒275-0016 千葉県習志野市津田沼2丁目17番1号
TEL 047(478)0222 FAX 047(478)3344
<http://www.it-chiba.ac.jp/>
毎月1回(8月を除く)15日発行

ニュースガイド

2面 宮本君`意匠コン`入賞/藤本さん奨励賞/熊谷さん学生優秀発表賞/石川さん最優秀賞

3面 27年度本学志願者数/卒論で3組4人が優秀賞/荒井上席研究員が講演/知財検定また全国1位/教員採用試験対策講座

4面 R&D PM研究会/千秋上席研究員「はやぶさ2」を語る/サーテック2015

5面 デザイン科学科卒業展・学外展/第4回花いっぱいIN習志野台/定年退職者

6面 定年退職者(続き)

来場40万人達成

タウンキャンパス

東京スカイツリータワーと2人で散策がてらソラキャンパス(東京都墨田区押上)ソラマチ8階が2月11日、来場40万人を達成した。

40万人目は、江戸川区平井から来た加藤千博君(小学3年)。お母さん

と2人で散策がてらソラマチへ足を踏み入れ、8階に上がって「魅力的な施設」を発見したという。記念品贈呈式で、瀬戸熊修理長から40万人目のお祝いとして、宇宙飛行士が使用する宇宙ペ



バックを手渡された。写真は瀬戸熊修理長と加藤君母子。

ロボットも宇宙も大好き!という千博君は、館内で係員の説明を受けアトラクションを体験。5時からの映画を最後に、2時間以上も館内で過ごし、親子とも「迫力があつた!」と喜びの声を残して館を後にした。

この日の開園式には、3月から正式に入園した4人の乳幼児とお母さん(本学1組、千葉銀行3組)のほかにも体験入園の5組の母子が出席。それぞれに瀬戸熊修理長と佐久間頭取が記念品を贈った。利用者からは、「近くに施設があり安心する」「大学なのでセキュリティも高い」との声があがった。

開園式後には、内覧会が行われ、淡い色調の乳児室や保育室など乳幼児のための心配りが行き届いた清潔な施設に、感嘆の声が上がっていた。

宮本君の意匠コンク入賞

多面体の回転式パズルをデザイン

立方体の面をひねって色を合わせる回転式パズル玩具はよく知られているが、宮本君が考案した「多面体の1つをベースに、ルービックキューブのように回転する多面体」。

宮本君が考えたのは「度々デザインパテントコンテスト」(文部科学省、特許庁、日本弁理士会、工業所有権情報・研修館が共催)に応募。入賞作(支援対象)として1月26日、東京・霞が関のイノホールで表彰された。



表彰される宮本君(右)

同コンテストは今回で7回目。今年度は31件が支援対象に選ばれた。特典として、弁理士が特許庁への出願から意匠権取得までをサポートしてくれる。

毛利衛・選考委員長(宇都飛行士・日本科学未来館館長)や弁理士らで構成する選考委員会によって入賞作に選ばれた。宮本君は「時間をかけてCADで図面を作製した苦労もあり、受賞できてうれしく思っています」と語った。

熊谷さん学生優秀発表賞

妨害音の到来方向と作業しにくさの関係

音環境情報の処理を研究する熊谷直登さん(電気電子情報工學専攻修士2年・飯田一博研究室)が、日本音響学会の第10回(2014年秋季)研究発表会(昨年9月3〜5日、札幌市の北海学園大豊平キャンパスで開催)で「妨害音の到来方向およびタスクの種類が作業のしにくさに及ぼす影響」を口頭発表。学生優秀発表賞に決まり3月17日、東京都文京区の中央大後楽園キャンパスで行われた授賞式で表彰された。

オフィスや教室で、妨害音と作業との関係を明らかにすれば、より快適な作業空間を創ることが



音響室で熊谷さん

Dを用いて実験した結果、妨害音が前や右から到来すると作業がしにくくなる傾向をつかんだ。さらに実験環境を実オフィスに近づけ、単語音声の不規則ノイズ(妨害音)の中で、被験者に単

語記憶の課題(作業)を与えて確かめた。直接音と反射音、ノイズによる音声のマスクング効果などを考慮し実験を重ねた結果、前と右方向からくる音が作業をしにくくする傾向を再確認

した。実験には飯田研の熊谷さんら3人に、鹿島技研から2人が参加した。発表に当たり、熊谷さんはスライドを簡潔に、落ち着いて説明するよう心がけたという。3300件を超す学生口頭発表中、優秀発表賞20件のうち選ばれた。

熊谷さんは受賞の感想を「光栄です。ご指導くださった飯田先生や鹿島技研の方々に深く感謝します」と語った。

「急げ!急げ!」

「渦巻き」には、台風や渦潮に巻き込まれるような恐怖や焦り、事態に備えようとする心理が誘発されると考えたという。壁に掛けられ、近くを通る度に見え、気づかされる。インテリアとしての存在感も十分だ。幅広く生まれたアイデアを、一つに絞ることに苦戦した、と石川さん。

講評で「期日が迫る焦りや危機感を、渦巻きの吸い込まれるような動きで巧みに表現した」と称賛され、今年度の国内外学生の応募作128点のトップに推された。

石川さん最優秀賞

「迫る期日」へ危機感促す「渦巻き」装置

産業技術大学院大学(AIIT)石島辰太郎学長、本部・東京都品川区東大井)が新製品につながるデザインを募集した第8回デザインコンテストで、石川和也さん(デザイン科学専攻修士10年・佐藤弘喜研究室)が最優秀賞を獲得。2月26日、東京・天王洲のクリスタルヨットクラブのクラブハウスで行われた表彰式で、審査委員長の石島学長から表彰状を授与された。

今年度のテーマは「回転」。石川さんは掛け時計のように壁に掛け、渦巻き形のシンプルな装置「Mind CYCLONE」を提案した。

試験日や、提出物の締め切り、日常に

「締め切りまであと〇日(時間)!!」――渦巻きの「テーマ決め」コンテストで、赤い球が徐々に真ん中へ吸い寄せられる時が進み、赤い球が中心に近づくと、渦の色も次第に濃くなっていく。「速くやらないと!」

例えばコンテストまで待っていると、これからのコンテストに参加し、私の名を知っていただけの機会を積極的に求めたい」と話した。

産技大は首都大学東京が設置する専門職大学院。未来のデザインプロフェッショナルを育成しようとして2008年からコンテストを開いている。

藤本さん奨励賞

「お手伝いキッチン」提案

公益社団法人インテリア産業協会主催の平成26年度キッチン空間アイデアコンテストで、藤本もも子さん(デザイン科学科3年・白石光昭研究室)が、募集テーマのうち「団らんキッチン空間」を選んで「お手伝いキッチン」を提案し、奨励賞を受賞。1月19日、東京都新宿区の京王プラザホテルで行われた授賞式で表彰された。

藤本さんは、子どものお手伝いから家族の団らんが生まれるキッチン空間を考えた。菜園のある

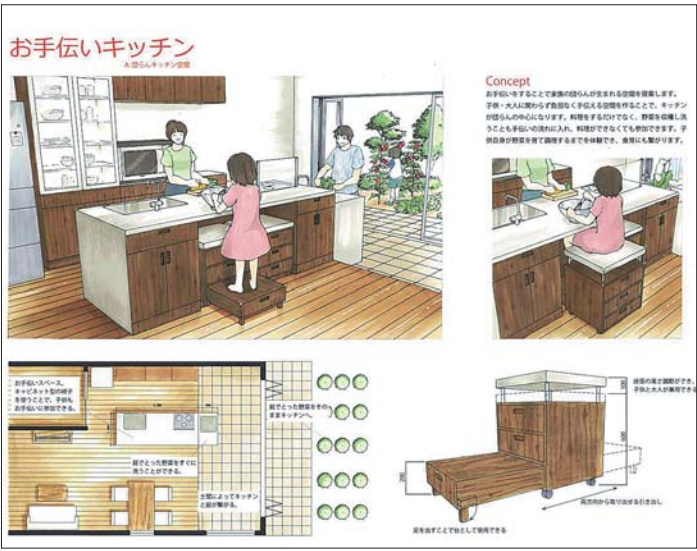


藤本もも子さん

誰かが負担なくキッチンを使えるよう配置などに配慮。キャビネットを兼ねた椅子は、座面の高さを調節できる。両方向から使える引き出しの下部は、小さい子どもの踏み台にもなる。

「子どもと大人が併用できるようにしたかったので、寸法を決めるのに苦労しました」という。パス(立休完成予想図)の着色は、質感が感じられるよう工夫した。藤本さんは「苦労した点が多かったため受賞できてよかった」と喜んだ。

コンテストは、同協会が資格試験で認定する「キッチンスペシャリスト」を育てるため、平成23年度から毎年作品を公



お手伝いキッチン

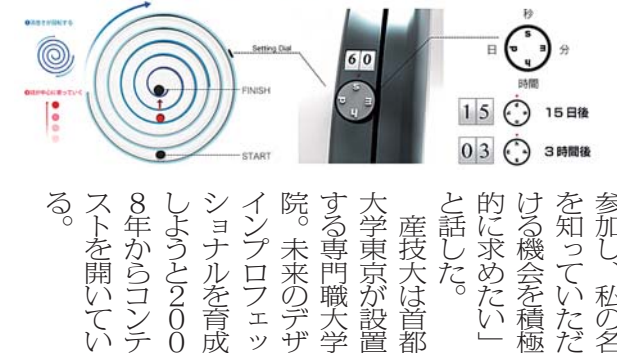
募。今回は3000作が応募。審査した上野美雪教授は「これまでとは異なる視点で新たなアイデアを



石川さんと作品説明(部分)



STARTからFINISHまでの時間を設定する



教員 (6人)



学生の皆さんへ
創造は想像より始まる
本を読もう

いつも笑顔。授業に手を抜かず、丁寧な対応で学生のやる気を引き出した。諦めず研究に取り組む姿勢に信頼が。

梅村 茂 (機械サイエンス学科・教授)



楠 学間を目指すため
大学院へ進もう

親しみやすい人柄。個性的な教員ぞろいの旧精密機械工学科の中、物静かでの確かなアドバイスに、みんなが安心。

武石 洋征 (機械サイエンス学科・教授)

定年退職者の皆さん

3月に定年を迎えられる教職員の皆さんを紹介しします。いろいろな思い出、学生へのエールなど、温かい言葉を残して下さいました。(敬称略)



津田沼校舎 7号館での卒業研究・制作展



アイデアで生活を豊かに

デザイン科学科 卒展・学外展ひらく

デザイン科学科で学んだ集大成を見せる「卒業研究・制作展」(展示委員リーダー・安藤碧さん) 橋本都子研究室、DM 広報リーダー・長嶋唯さん 長尾徹研究室、同 大貫陽平さん 上野義雪研究室、いずれも同科

作品を楽しみにしていた市民たちが、成果を見て回った。 広報リーダー・長嶋さんは「実りある4年間をキーワードに、ポスターで16研究室の美りを表現しました。学生全員が1年をかけて取り組んできた作品や研究成果を、十分に披露できたと思います。平日なのに多くの方々が見学に来て下さり、感謝しています」と語った。

(6面へ続く)

大震災復興へ花いっぱい IN 習志野台、今年も森教授と学生たち



東日本大震災復興支援「第4回花いっぱいIN習志野台」(ともがなばら) 実行委員 会長 橋本都子、本学と旭市、船橋PTA連合会が協力は3月8日の日曜日、船橋市習志野台の北習志野近隣公園で開かれた。今年も本学から金融・経営リスク科学科の森雅俊教授を中心に学生25人が集まり、準備や運営、後片付けに協力した。

震災1周年から続けた4年。会場には被災地宮城・福島・岩手の3県や、被害に遭った九十九里浜北端・旭市の海産物が販売された。ほかに花の苗販売所、近隣商店支援の模擬店、寄付品パザールなどが並び、多くの来場者でにぎわった。「本当に助かったよ。ありがとう」 実行委関係者から感謝の言葉をかけられ、参加学生たちは「少しでも力になればうれしい。いい経験ができました」と感想を述べていた。

夢とアイデアいっぱいの作品が並んだ活動報告展(学外展) = 秋葉原UDXギャラリーで



三つの「へびりっ」 秋葉原では学外展 2月14、15日には、研鑽の成果を広く一般の人々にも公開し「千葉工大」への認識を深めてもらおうと、秋葉原UDXギャラリーで「デザイン科学科活動報告展(学外展)」が開かれた。卒業制作の中から選りすぐら

れた38作品のほか、演習授業と産学協同プロジェクトの成果が展示された。 秋葉原UDXでは昨年に続き2回目。今年のコッセプトは三つの「へびりっ」。一般の人のデザインに対してのイメージを破り、自分の頭の中だけの世界から飛び出し、自分の殻を破って新しい

世界で成長して姿を象徴するということの意味が込められている。 このコッセプトづくりを含めて会場設営を行ったのは1〜3年生の有志スタッフ35人。作業は昨年11月にスタート。「へびりっ」のコンセプトを情報、プロダクト、インテリアの3コー

私とこのころでも使えるか。 秀作がそろった会場では、「こういう発想は学生ならですね」「これは私のところでも使えるか。た。 ラフィックイメージも全スタッフのコンペで決めた。 やはり学生にとって、第三者に見てもらっては大きな刺激になりますから」と話していた。

な」などのデザイン関係者の感想や、制作した学生に熱心に質問する来場者の姿も見られた。 学外展の指導と運営に当たった倉斗綾子助教は「卒業研究から学内展、学外展と進んでくるに従って、作品のレベルが見違えるようになってきます。やはり学生にとっ

(5面から続く)



廣沢 明 (総務課・警備員)

ありがとうございました。
感謝!

おおらかで穏やか……安心感漂う人柄。寮生の信頼も厚く、最終年は寮生のいない千種寮での警備に尽力した。



矢島 久子 (津田沼学生課・課長補佐)

魔法のことば~!!
"ありがとう。"

心の奥に届く優しさが学生たちに不思議な力をくれる。悩みがあっても、ポンっと押してくれる手は魔法のよう。



林 喬久 (電気電子情報工学科・准教授)

興味を持つことは仕事の始まりです。目標に向かって進みましょう。

学生実験室の設備維持管理などに尽力、授業では親切丁寧な指導で学生たち個々の能力を伸ばし、慕われていた。



山下 智司 (機械サイエンス学科・教授)

若い後輩達へ。スタートラインは一緒、チョットした努力と勇気で差がつく。企業は協調性も重要で、技術者は現場の信頼と協力が得られれば勝。

並々ならぬ熱意と信念。妥協を許さない姿から多くのことを学んだ。ぶっきらぼうな言葉に「愛、がたくさん。



後藤 芳喜 (新習志野学生課・警備員)

最高の環境で上司、同僚に恵まれた12年間、充実した勤務ができました。千葉工大のますますの発展を祈ります。

優しい笑顔ののっぴの警備員さん。さりげないあいさつが心地いい! 寮生も加わりにぎやかな新習志野を警備。



佐藤千枝子 (学務課・係長)

ゆるゆると歩みて花種をまく

おっとり、ほんわか。誰もが安心できる癒し系キャラ。年配教員にも親しみやすく頼りになると信頼されていた。



今村 易弘 (生命環境科学科・准教授)

今やるべきことを「後で」は禁句です。今やるべきことは今です。

対人ではダイナミック、学問的に繊細緻密。化学工学の実験棟で学生と一緒に汗を流し指導していた姿が印象的。



西林 賢武 (教育センター・教授)

耐力強化

半世紀余を本学で! 教育、研究、運営と真摯に取り組む、数々の委員も務めあげたパワーは年を感じさせない。



三浦 正子 (津田沼学生課・管理人)

たくさんの思い出、ありがとうございました。

飯岡研修センター、御宿研修センターと、学生たちに快適な施設管理に務めた。若者に囲まれ若々しさに磨きが。



川浪 利文 (総務課・警備員)

津田沼校舎で11年間、お世話になりました。感謝申し上げます。

いかつい体型とは裏腹に、いつもニコニコ、優しくユーモアたっぷり。体育会系父親! と職員から慕われていた。



田口眞一郎 (総務部付・事務職員)

「和」

物静かで温厚、インテリ系素敵オジサマ。永く図書館業務を学生目線で進めてきた。写真部ではプロ並みの腕前。



藤井 正温 (法人事務局・事務職員)

大学の節目節目での広報活動が一番の思い出です。皆様方のこれまでのご協力に感謝いたします。

広報畑一筋。特に鯨生体観測衛星(観太くん)打ち上げで「ついにやった」と目頭を熱くした姿が昨日のこのよう。

職員 (8人)

同窓会



平成26年度を振り返ってみると、例年以上に様々な経験や出会いの多かった1年でした。縁あって、同窓会の評議員を務めることになり、同窓会の総会に出席をしたことから始まり、10月には九州ブロック佐賀県大会にも参加をさせて頂きました。初めて同窓会

のブロック大会に参加をし、多くの先輩方と懇親会などを通じて、本学の歴史やそのころの生活を聞くことが出来ました。世代を超えた先輩方と出会えたことは私の財産となりました。また、今年度からグアム大学で開催された、夏期英語研修の引率?として1カ月間、学生約40人と共に英語漬けの研修を受けました。他国の異文化に触れ、英語が話せず身振り手振りのコミュニ

ケーション、他では味わうことのできない事ばかりで良い経験になりました。そして、1月半ばから2月半ばまでの東京スカイツリータウンキャンパスへの出向では、普段とは違う業務を体験できたことは、とても良い経験になりました。今後も良い出会いと良い経験ができるように精進していきたいと思えます。学生センター新習志野 教務課 高沼 憲昭

四季雑感



卒論・修論も無事に終わり、研究室は2月までの喧騒が嘘のように静かになっていきます。4月になれば新4年生の卒論がスタートし再び騒がしくなるので、僅か1ヶ月しかないこの静けさを楽しみたいところです。とはいえ、私自身は学会や

卒論・修論も無事に終わり、研究室は2月までの喧騒が嘘のように静かになっていきます。4月になれば新4年生の卒論がスタートし再び騒がしくなるので、僅か1ヶ月しかないこの静けさを楽しみたいところです。とはいえ、私自身は学会や

卒論・修論も無事に終わり、研究室は2月までの喧騒が嘘のように静かになっていきます。4月になれば新4年生の卒論がスタートし再び騒がしくなるので、僅か1ヶ月しかないこの静けさを楽しみたいところです。とはいえ、私自身は学会や

編集だより



今年度も間もなく終わりを迎える。毎年この時期は、学位記授与式に想いを馳せた内容のコラムで卒業生の思い出に浸りつつ、白エピソードを思い出しては一人てニヤニヤ。しかし、今年も特別な

今年度も間もなく終わりを迎える。毎年この時期は、学位記授与式に想いを馳せた内容のコラムで卒業生の思い出に浸りつつ、白エピソードを思い出しては一人てニヤニヤ。しかし、今年も特別な

今年度も間もなく終わりを迎える。毎年この時期は、学位記授与式に想いを馳せた内容のコラムで卒業生の思い出に浸りつつ、白エピソードを思い出しては一人てニヤニヤ。しかし、今年も特別な

今年度も間もなく終わりを迎える。毎年この時期は、学位記授与式に想いを馳せた内容のコラムで卒業生の思い出に浸りつつ、白エピソードを思い出しては一人てニヤニヤ。しかし、今年も特別な

大橋 慶子